



# 事例ベースシステム

概要



## 事例ベースとは

- ▶ 人間の判断の中には、過去の経験に基づき、**成功した方法を繰り返す**、あるいは、**失敗した方法を避ける**、という経験的な推論によるものがあります
- ▶ このような推論を有効にするために、過去の事例をたくさん収集して使いやすいうように整理しておき、経験的な知識の再利用を図るのが**事例推論**です。また、事例として収集・整理し利用しやすくしたものを**事例ベース**と呼びます
- ▶ 事例ベースが有用なものとなるためには、新しい問題と何らかの意味で「類似した」過去の事例が見いだせること(**事例検索**)、そして、見出した事例で有効だった知識を新しい問題に対応できるように変更すること(**事例修復**)が必要になります。さらに、この結果はまた新たな事例として追加(**事例追加**)されることで事例ベースは成長していきます



## どのような知識を事例ベースとして整理し 利用するのか（ルールベースとの違い）

- ▶ 問題解決のプロセスが、If(条件)、Then(行為)という一義的な規則に分解できる時には、**ルールベース**、つまり、このような規則のリストと規則の使い方を定めたものが有効です
- ▶ 事例ベースが有効になるのは、問題解決のプロセスに**一義的な規則として決められないような判断**が含まれているか、あるいは、そもそも**問題解決のプロセスを細分化すること自体が困難**であるような場合です
- ▶ このような場合に、事例ベースでは問題とその解決方法を全体として一つの事例として捉え、その内容と成功あるいは失敗だったのかを記録します
- ▶ ルールベースとは異なり、事例ベースの導く「解」は普遍的に正しいものではなく、**複数の異なる「解」が提案される**こともしばしばあります。そして、ユーザは、これらの中から新しい問題に最も適したものを選ぶ、あるいは解の中で妥当と考えられる一部分のみを参考にするといった対処が必要となります



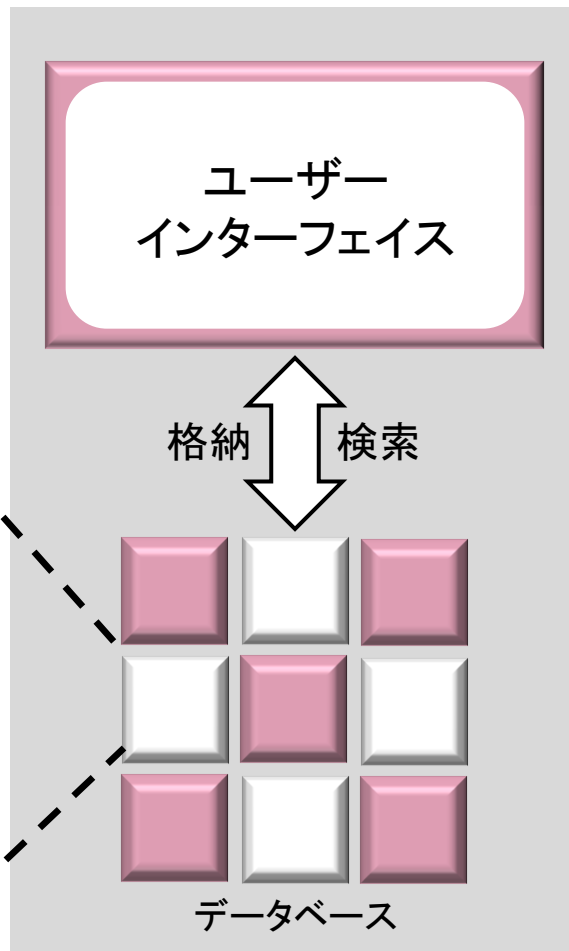
# 事例ベースシステム

事例ベースシステムは事例を保存するデータベースとそれらの格納と検索に適したインターフェイスから構成されます。

## 事例

- 解くべき問題についての記述
- 問題解決の解に関する記述
- 問題解決における補助情報
- 解の結果（成功したか失敗したか）についての記述から構成されます。

## 事例ベースシステム







# 事例ベースシステムの画面構成

## インターフェイスの構成

- ① システムメニュー  
各機能呼び出します。
- ② 機能の操作画面  
①で呼び出した機能の操作画面が表示されます。



## 事例の構成

事例の構成は、事例タイトル、問題対象、属性、問題点・原因、解 対策、備考、参考文献となっており、事例タイトル以外はキーワード程度が表示されます。画面右側の「テキスト」ボタンを押すと、それぞれの項目の詳細を閲覧できます。

事例タイトル 低透水性ガス貯留層における埋蔵量の過剰な見種り			
カテゴリ	単語	オントロジー	説明テキスト
問題 対象	ボーリング調査	参照	テキスト...
属性	特異点	参照	テキスト...
問題点・原因	埋蔵量、過剰見種り、ガス貯留、有効間隙	参照	テキスト...
解 対策	発見の過程、油田サイズの分布、貯留岩、トラップ、シール、モデル	参照	テキスト...
備考		参照	テキスト...
文献ファイルの指定			
		参照...	追加

クリックすると、詳細説明が表示される。



## 事例ベースで利用できる機能

---

- ▶ 現在はセキュリティ上の理由により、利用できる機能を閲覧（事例の検索、表示）のみに制限させていただいております。